



成長の証を刻む

上記の作品は紫門さんが小学校3年生の時に描いた絵と
工作物をまとめた作品集の一部です。

思うがままに描いた豊かな色彩の世界。

家族旅行で訪れたオーストラリアの洞窟で見た

キラキラ光る土ボタルの群れ。

「行ってみたい」と想像を膨らませて描いた、地球を作る世界。

子どもが描く絵は、思うままに筆を走らせる絵から

対象物との距離を測ったり、

縮小率を考えたり、色合いを把握したり、

空間認知能をフル回転させて描く絵に変化していきます。

空間認知能とは、物の位置や形状・方向を

三次元的に把握する知能のこと。

紫門さんの絵も、自由な感性の表現から、

大きな洞窟と小さな土ボタルの対比を上手に表現したり、

手前にいるお父さんとお母さん、

奥にいる紫門さんとお姉さんとの遠近感で

スケールの大きさを表す絵へと変化しています。

無我夢中に描いているように見えて、

実は成長の証を形に残しているのです。